免日之塔

毛吹草題目録

秋部

初秋　七夕　桐
一葉　秋網涼
秋柳　秋蟬
秋螢　露
蜻蛉　萩
霧　木槿
朝顔　桔梗
女郎花　蘭
萩　芙蓉
薄　秋草花
花盛

芭蕉　鶯　秋田　鹿　鶴　秋雪　月　十三夜　蔦　色紙　木賓　和歌所　朝顔　鶴妻　雲　雁　鶯　鮒　蓑　月　菊　楓　名木紅葉　湿鮒　雑炉

毛吹草巻第六

炉

初秋

同じ秋の風ぞ吹くやうなれど　安知
世にはかはる秋の色かな　弘永
文月の中ばやうなれば　宣重

七夕

七夕の袖の涙や野に出でし　宗設
雨天なりしかば
涙雨乃出でしの二星　重頼
ちぎりをるかな七夕の織姫　弘之

たかうと織や祝ひの言葉　白三
宿りん七夕ぬや　橋のつめ　宗治
わ上乗そと　白三八　[illegible]　正利
七夕の織布ぬらせ　天川　[illegible]

二葉

一葉かさせん　桐壺　[illegible]　[illegible]
一葉の舟　[illegible]　[illegible]　[illegible]
大きなる　[illegible]の一葉や　[illegible]　[illegible]
秋風のおとや　一葉の舟　重雄
一葉の舟　[illegible]　[illegible]
一葉や　[illegible]　一心
一葉や　[illegible]　[illegible]

一葉や　[illegible]　[illegible]
[illegible]の舟　[illegible]
桐の一葉　白三
[illegible]　[illegible]　清元
[illegible]　[illegible]

桐

風の[illegible]　[illegible]　白三
桐の一葉　[illegible]　清元
[illegible]　安種

柳

[illegible]　春可
秋風さびしく　[illegible]　柳盤　[illegible]
[illegible]　正意
秋風の[illegible]　忠也

うきし秋と井手の蛙の柳髪　弘永
葛城やちられても挿も形姿　昌言

秋湖涼

涼めとてよそに遠ざかる秋の風　秀重
夜あけきまで読るねや秋の風　長好

秋螢

末に残て光る螢や上燈籠　玄竹
雨宿りよふしや秋まで飛螢　宗信
禾の穴ハ秋の田に出る螢かれ　宗吉

殘蝉

秋の蝉ハ雲に月出の時雨ハ　昌言
啼きこの琴なくハ蝉と蜩　安利

秋扇

秋風そくとらぬハ扇桐捲に　正武
扇ハけとはぬ計そ風の口　正長

露

あ露の和も月もさふや露の玉　清元
西ふき進ニ音に
いかりきん水むけぬ目も袖の露　重頼
玉露や尾花の末に結び　政之
追ニ音より
底涼き古川ぬる袖乃露　永治
新涼き三ヶ月ゆるや露の玉　光堂

[illegible]

霧

[illegible]

萩

[illegible]

秋風のふきまさるや萩の葉一
[illegible]
[illegible]

朝顔

[illegible]

朱欒

[illegible]

露の玉に結ぶぐもの　重方
花の色もこころの白きむべ　教定

女郎花

[illegible]や花の露の[illegible]　政氏
[illegible]のをみも　弘氏
[illegible]の女郎花　重教
[illegible]の女郎花　[illegible]
[illegible]の西澤の間の[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

○見わたせば勝行めくや女郎花　西吉
雨露の息みをつれ盛れ　弘永
女郎花おほくの山や女護の島　宗房
めでぬ花交名や露のあむ女郎　宣方

桔梗

咲花のちぎりや桔梗笠　吉政
結ぶ桔梗も花の一重哉

萩

見渡野の萩を
草かりの秋をさびやみだるる姫　昌元
中國にあるを云ふ
名やすらむ枝ぶりの萩の花　宗治

年に丹の秋の花の花の衣　秀重

萩薄ゆたかなる草あり也　宗陳

秋風やはぎうに薄の花衣　西式

萩の露あやかんるる丹葉　熊雲

ちるはぎのころぶぶぶぶ　円

ぬしは風のいぬけるの小葉　一才

踏分は是もとあるは小葉　宗治

小三郎とはかどらしもの聖命　西幸

仙人やまよりん白き萩もも　重方

蘭

山は錦蘭は金蘭の花の香　弘氏

咲ぬは蘭とぬぐとりの薄　昌元

とみるとにあるとあるとも薄　康庸

ちり果る枝はびやくえん薄　宗朋

ちりぬるんんらんの花咲　宗治

紅葉おりて咲や大口薄まま　近依

おちばまのひろ枝やも薄　西恵

蘭は人をみるとの薄　昌元

薄

かり人の手を切人も薄の　西利

穂よりぬるはつが袖の尾花の　於宗

出る穂もち袖ぬれや薄　梅翠

尾花さへ袖まくりする　光西

秋みるまるや花の旗薄　昌元

風のまやらつ散　流るる滝　廣則

風ふけハ散るふり袖の花ぶゝ　欽恭

秋風よ滝の落葉や武蔵野の　同

花盛

源りゞの山ふるよそゝ花の嶺　西亜

山ぶしの上ふたい面花也　雪

茅萱

蛍ふうをハ夕ゝよんまハ浮橋ぶ　玄彩

秋草也

供出ら遊や仙鄉花　忠尚

ふうしやふんらし花の良　玄古

合ちや思のちこ巻すまハ巻　玄身

小車にゝ乗る油ら花乃ゝ嶺　信全

ぶぐれと乃ゝよ小車ぶ　玄南

ゝつ方ゝ花ゝ車の花乃風　西利

胡蝶りや蝶ゝ眠ゝ　弘永

笛ゝ吹ゝ　宗香

花を惜ゝ山ハむちら弱つか　昌玄

花ゝけハ人やゝびゝけ思草　玄南

風ゝ花ゝ花の屏風巻　宣門

花乃法ハ聖ゝ法ゝ人ゝ　宗敬

ゝ嶺ゝ一ま巻や花延　玄玄

花延ゝ乃ゝ散ゝ武　西利

武蔵野や幸近人の花畠　白一

行人のたもとぬれぬ花野哉　物翌

ずゝむしを入るハ苔の社哉　能信

嵐ふきつゝ風よりくるやすまひ　定次

玉簾をおもてをれすまひ　光成

芭蕉

芭蕉の葉ハ農ク芭蕉の大扇　定貞

相撲

力ぬけ相むれ利生ゝ揚お樓　道元

名ぬしそ其の角ぐ　咲す　同

見をいそとるハ勝負をすまひ　信安

羅

ワ[illegible]相子ぞてや材木ゝ踊　熊信

中に居る女や巴木ゝ[illegible]　宣重

後ゝ世もかゝる髪風ちとゝ　重俊

猫妻

猫妻ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　昌元

猫田

山田ゝ猫ゝ[illegible]や庵のまゝ坊　懐新

猫妻のかまひてゝ[illegible]ひいなゝ　恕徐

とゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ猫やいまびゝ　光立

ゝにまゝ[illegible]ゝ猫庭　正引

虫

蟬ゝハ理ゝ風も虫の[illegible]　信安

立ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　正重

野は鶉よ玉虫の袖ふる虫の　昌元
塩ふり耳わりとやふるめ蓋　ちさ一
鳴虫乃あゝの世ちや蛍迄のもの　重方
物ぬ山ぬ松ぬ花中出蛍ぬか　一正
きりぐすの鳴をおめてや寒さ　昌
きりぐすそや蟋ぐすそこ秋色　昌元
立ぎぐすにたるひぐきそう雪出　常久
寒さそやや波手ぬよ声のきれくも　利忠
秋の野たにや鶉のきれくした　友重
をけくんと秋のまとよめや蓋　常久
きりぐすを秋を告るやや鶉衍　熊家
秋寒や小蛍ぬ月ぬ　一正

風乃中ぬ月ぬ字紙ぬ　宗勇

鹿

鹿や秋ぬ書ぬひて男ぬ　秀重
三月ぬ秋ぬ月ぬ安鹿ぬ　永治
鹿乃ぬる書ぬひて月ぬ　昌元
秋乃鶴ぬて鹿ぬ　弘永
ぬげぬくてぬることぬづる四年ぬ　宗治
鹿乃ぬやとぐねぬる鶴ぬ　常之
鹿の毛の日ぬ射ぬる矢の月ぬ　宗家

鷹

みくまのにかけるかなの　弘仁
いはもる秋や遠つよりかな　昌云
数くあく能かりうるや千字文　重方
蓮葉や雲乃神ならむ　一正
便宜せよきぐ文もなぬ清行　玄虎
わぐりはりあるふ翻やんき歌　宗敬
たく能雲野は福八組字かな　正宗
三ら字の間一形乃天津祝　重貞
あの心の形や月付字天津　然永
くりハあくりう能ぐ野ハ　成安
ちやく後れ雲ハ榜ら津祝　如安
はらるやふ字ぐら　宗方

ちぐり文一字一点天津祝　弘永
をれとや作り字ぬん天津祝　元弘
月を母ゐ能ら祝や椿の方　重方
あれとうたゆびハ祝女村字ら州　昌云
もと明くこ常あや天津祝　弘れ
かぐりとうもてみゐる朝ハ　一正
月ら社矣文といくん津祝　重貞

亀鳥

ゆ千かくもゐ面どらぬ山海ハ　孝文方
ぬ文ハ人をまゐ御うわゐかハ　宗之
秋まるや名ぐ文ひぐよゐ　夢重

鴫

人乃又くれかくしぎ田やとのひ　光吉
遠へ〜ゑ鴫しぎ　あミ綱の目方量　春可

鶉

真野ゝうら風
あけハなく吉川のへの乃鶉哉　宗治
ちくハ角くらいき鶉のこゑ哉　永治
戸を荻毛ハ秋乃日のうら哉　昌元
萩もくゝいとゆけこゞゑる鶉哉　重俊
郭くゝ物くゝ乃野や京鶉　[illegible]
ゑにきびゑる初うら風　肥前

鵲

郭公居すハあゝ鵲の夏　宗長
消ゑゑ鵲の目をあふ夕ゝ哉　重貞

秋鷹

目乃内も淋をはりゑゑ小鷹　秀重
もばやくもあやゝ刺刀鶉鷹

鵠

ゑ乃川て袖ゑゑひゑ乃浜小　弘長
たゝみをせく浪も折也水衣　徳元

月

五月闇の雲ぞ晴れわたる秋の月　昌意

浪さえて八幡遠くまさるかな　正章

○新さとのめ遠の里かとうてる月　重頼

秋ハ一ゝ月さいろ月の字　弘之

天乃さかのはしら拍子よ三ゝ月　光真

おもはせて花かんん月乃良一面

大きかよかるゝや海の月の新　貞盛

春ハ秋のあゝなる海さん秋の月　宗治

かゝつまや尋て回る名月　滋元

月代乃越うまゝとよ三川　貞之

月新ハ二人ハまて河一人ハ　弘永

月の八天乃さ石よ神　嘉

月乃松神をこいるゝ之式　[illegible]

相ゝも帆ゝを樹や月毎　永治

秋もひのまん乃わけ乃月の　西忠

月と乃ゝ人乃ゝんや乃項天　西信

水ハ新ゝり乃へゝれや月の弓　宗時

月乃ゝ新ハすん八宗乃西　道二

池乃ゝ材ゝ之けづゝ嵐ゝれ　玄竹

西山乃ゝあゝゝや月のゝ煙　設之

雲ゝゝ乃ゝ乃ゝ乃月乃ゝ　[illegible]

小野ハ海ゝりて

長恨くゝゝとそゝふ小夏風　昌意

月ゝゝ乃ゝ秋ゝ新ゝとゝん月の友

月の桂もうにはたらんハめしの字　繁嘉
上と云ふ志りもやいとんの哥　乃二
ゆきひやつかつりの空の月　定春
あるかたはあらい住月雲　義雲
廣沢のいけうひかる月哉　宗房
松の空の月もかさ拾面白さ　重正
月かけの生きハ面や不老門　静雪
月の輪ハ角よりかけ桶のれ　光雪
出て月只天の月の出へ月　之秀
月新とはるぎ海とや滋の系　重真
出て唐人のふんやなるけ母　弘水
月夜あるく月あるき面　方雪

雑りの残り別

はるるゝのゆ白てなるなてら月　繁嘉
月うけハ波の新ける焼れ　同
月うかハしもし雪やあぎの波　同
月ハやよ清わるうあ　如函
武蔵野てみるこの月や　定時
月出よりの陸の紙屋　自二
ちぶはや志新よりの月　西利
文月の子ぞこりみくぬ面　喜春
掬ひまてあ月永橋を　永治
濁江やこうまるの月の臭よ　吉政
○哀なる蛍の月　西亜

○雲にわひて入る月よりかるや月の　宗頼
雲ぬ　はらや　雲ぬ月の白兎　伊伯
十五夜の月をみるこころ　知元
雲ハ月をとゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
天ハ月をとゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ハ十里も一見や月の清山　惠次
月や清んする人の心　能茂
天衣ぬ雲ぬ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
たゞ月ぬ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
月の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
月の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
月の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

風流　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
月と日　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
山の字　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
月と月　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
月の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
月の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
雲ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
池水　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
山へ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

満月やくもらぬ空は風車　宗鑑
晴とても月のけしきもほし月の峯　言都
月の出を浅き笠八まつりの三線　道芳
ゆうべハいつも月もいでむ西東　正依
よろこぼしにかゞみてあるや三日の月　宗字
さしめくる月もや人の月乃葉　同
月見る雲はゝらひ行く上総　露沾
　夜遊のまく中を恋て
日暮て又恥くぬ宿や月の友　蔵次
月の毎夜夜を絹もあらき光哉　貞盛
更ゆくや母に業ハ月乃良　吉森
朝の戸ハ棚や月の内くもり　正次
弦なれとやとはいへど月のうら　武位
かゝふくや上りかきの月の峯　成政
墨衣乃ころこそ月の巖かな　長昌
水に近き楼台や月の海屋形　康庸
いかにしても月さがりて空の月　弘永
月影を雲のくもりや無名閣　幸貞
露霜もそへてうみまうく星　月よ　正甫
かきくもる雲やあやし月の海　政石
ぬの洗ふてある所ハ月の名所かな　宗朋
月見ぬやうら鳴がひの玉むし　雄兼
ふとりゞは月の兎のありゝ坂　忠地
天蓋とあれもいでぬ花の鏡　昌言

五ノ十六

月代幾夜や池を分て　一西
底さえまぼろやいさゝ船の月　真盛
咲り船の花いろ〳〵ゝ三ゝ藏　清
うゝ月かつゝ丸花のつゞみ　重方
つまてゝ入ぎ自みゝぬや波の月　弘永
船ゝゝ山のゝひさせ月乃水　徐新
天乃戸の月やさゝゝ車鎖　同
へ山乃ゝ月ゝゝや月の嵐宮　宣雄
雲ゝゝゝゝ月やゝ濃の神　清長
国ゝゝも人乃逢や月の負　友猪
月ゝゝの月も張ゝゝゝ月　昌宗
文月やあゞ八重ゝ波ゝ　俊酒

月乃夜やあゝゝゝゝゝ　一
十六で望ゝゝ月の負　重方

遊子吾子

八月や月ゝゝゝゝゝ　ら永
猫月清のめゝゝや月も車船　定河
ゝ人下ゝゝゝゝゝ月や水月　真盛
三ゝゝ月ゝゝゝゝゝ月　丁理
男ゝゝゝゝ月てゝ接ゝ　一示
月八一乃ゝ新ゝ三千世界非　弘永
一月ゝゝく月ゝ月ゝ月　同
文月ゝゝ月ゝ虹乃雲　吉弘
明ゝる月や嵐の穴ゝゝ　宗朋

名月

今宵の月まるうんようつ遊ぶ　静寿

三光の盃めくり月は小さかづき　宜頼

うそ月の影か今宵八月盛え　昌意

名をうる酒ならぬよ月見かな　一正

こぞみてやまん亀で月見かな　弘永

安藝國にて

三五夜の中國一ぞ安藝の月　同

今宵なよふん万代の月　正一

月代のかけ飛かんしてや月は　書久

名月は桑八わもりの目鏡は　正直

月雪を行暮て忙しおや　東枝

あらひ月九つの字ずれの源は　小座

きんこ馬も今やうけ花も月よ　弘永

名月は白きを見てうぬ人も遊　然斎

月くれ見まん月のこよひ月は　一正

おかれも見えたまひそ月は良　正孝

月といふ早速ややまの峰　正甫

名月は月日生さへさき詠めれ　道二

名をも月は白きそおゆる夜のひ計　然斎

寺よむや思案の葉は秋の月　同

むさし野八千分わけそ秋の月　守供

雨月は猫と竟てや弱道　正平

照月は男ばかりかしらぬ月は　宗治

月こよひのぬしぬのやせさ室孫 忠隆
武蔵野乃月といはれやくの月 信俊
そそも名ふたくべかるる月嶽 忠定
名月を鏡の池乃をめ玉 家成
落くるふもの月やゐ水精 邦宗
あらしき月をおすやひさう天 定時
月ゆひ水精乃あ山 安明
月乃名ハ雲よりくるこ丸 宣秀

十二夜

三秋のけて世こ家月 能知
月く共中より要乃月乃家一 忠
名をつゆるあひの月や家遠 秀重

住吉よ海のりく
来てあるや月も寶乃安芝 能知
拾大臣今乃月毛の馬ゆ 俊光

菊

船ろ家よ世ハ楊きの酒 昌宗
家ハいこ菊共閑や花嶋 西忠
人く共遠そしてりも菊樹 弘永
金ろうとう人玉菊やちり星 重頼
方をふけいはいきやし菊乃閑 昌宗
久家ハ五曜乃星の菊花 西忠
菊酒乃ゆ人とこ家ハ閑潔 秀重
一本をゆひ玉菊やちき星 用之

[illegible]草　俊成

[illegible]　貞義

菊九月九日

重陽乃ちよのはつかやなりの花ぞ菊　貞慈

[illegible]　盛政

一方もこけるは我身の花の数　永次

ちりぬるやまこゝろたちくる菊のうち　西蓮

大白のいとおりしたし菊の花　治連

雨露乃恩澤さかんなる菊　西蓮

菊陽乃沼の釣菊の渕　繁記

菊の種の線をきるやゆゑ　嘉春

[illegible]の花乃陰ぞや菊の渕　俊[illegible]

堀て渕とうむたぐひの菊の[illegible]　西蓮

[illegible]我菊[illegible]　繁記

花渕菊の大海そ蘭の菊　宗房

明日[illegible]菊の[illegible]　昌之

[illegible]は[illegible]せても菊の渕　弘永

蔦

[illegible]乃時雨来なれや蔦の紅葉　易猪

[illegible]を揚て[illegible]や出る蔦の扶　宗房

楓

[illegible]ある[illegible]し蛾の紅葉　永治

生[illegible]おのいまはなる果の筋　弘久

通り[illegible]時雨をまねき蛾　宗貞

色葉

七夕の織女ちりのなかれ　重真
おもひひやおもの葉のいろはあ　重性
なつ〳〵ふとあるれ　道二
みわらぬ八一〳〵千ゝ　永宏
たがいきも及ばぬいろはか　宗隆
ちりぬるといろはを懐の風の声　宗頼
いろはとも習ふ音法楽うれ　永敬
山なでしこの字もちらぬいろはか　忠也
風のなびくいろはのはやちぶ　正次
面影流れまこれの師匠か　宗宣

名木紅葉

花のうるわ色のお物乃初紅葉　懐新
山風まんどうしのお紫　昌元
凡よりやうの風の材お紫　弘永
染と秋の名よ深る花楽　光有
秋乃末と名ぞ名ある楓か　一正
名ぬるなどぬ〳〵でよきお紫　好之
時雨て〳〵やお紫の水　玄廉
名のおきハ人ぞ楓ぞあれお紫か　吉次
すぐ赤きぞ〳〵楓のもこらか　昌元
深あるら紅うき付すの河面か　弘永
山王乃ぬ紫やさるすぐり　道元

和歌

あれくいかんるや朝のかすみ　重頼
竜田のよ人揚のくるるおもかな　永宏
赤うてといんくすの紅葉の河面　由氏
紅葉かすする山ハ下きニ　忠也
山ハニもさきはふるや村雨　重貞
和歌ハ紅葉ハ流来ぬれや龍田川　重方
色ハ高やこらうれしく　懐宗
山ハ南河面の紅やこうれ山　利邑
山姫やすくれ紅ハ　元弘
ゆうべを先になれ紅葉の　懐宗
紅葉河面ハ色ハ　同

通りがけの河面や深て落ぬ　正吉
見ぬ紅葉ハ色よりるるおもかな　信安
紅葉ハ山乃ぬらす赤熊城　良義
玉露とうす神ぬ紅葉　重頼
おもかい秋を紅葉ぬ来ぬ　弘永
紅粉体ハ紅葉を揚を池の屋　体音
西乃河ハみるおもかや猿の尾　昌元
落雁にうるみ来ら紅葉ハ　重方
紅葉ハ山てを揚ぬ　宗信

木實

はぶのうたてくいぶ逆ク稜人柿接の　利清
宮ぬ山でをやあげはの推ぬ　徳元

赤きこそ障子とは柘榴枝　政昌
ふる雨ぬれも千方なり　家春
枝かるゝ鳴るゝ雉や風車　玄心
栗なるゝ山も栗ゝ家の棹　貞盛
実がるゝ八月社やゝ　貞義
木ばゝ布をたてる袴　意歌
ぐん栗の山かゝ家なる　道二
山猫もくゝひよのぐるゝ　徳永
実をつむ三月八重ゝ代家　円
水栗なるやゝ山の色　可
栗ゝやあ秋のうゝ生ゝ　芳春

草

女郎花松ゝ立て社の　重頼
穴ゝ山ゝ山の蘭草　政之
蓬ゝ草八四月ゝ　徳元

酒肴

為ゝ知びゝ鯨　意敬
ゝ鯨の鯨　徳元

紅葉肴

ゝゝ紅葉や　宣之
紅葉ゝ赤にゝ
ゝ度八ゝ　重頼
水ゝ八紅葉　昌言
水ゝ紅葉　定時

やくぶの竹やうの竹　重方
柵　なりぬるあへぬおもの　宗朋
酒のくめこみよ酔てやおもの　浦元
酢さしくべよりおもの鱠　一匹

雜秋

松もてころ　ものや猩赤付　覺字　一味
ものもはまるこんやはとりめぬ　揚鑑　宗漆
こんもなれてまらぬ　鑑外　道鐵
水もまるや林の河　放我　浦元

伊勢ありて

大淀の浦や伊勢羅林の波　同

一睡のあくめ酒やあ乃種　野治
なよりもまるや　弘和
指物ハくるあ　立庭
切ものや桐の葉ものれ林　浦元
聲ものハくハせん　西真
ものすひのゆるぐや林の風乃口　伊伯
おもものも遊よ指のめんもも　宗朋
林風よりもすりをすりす　宗心
ものや林を松ハこびるる　玄一
林のものよるる松の緑外　宗清
松ハ林のよりれて常　弘和
林風よりの撫　真盛

出るとやはるちらさるる文障子 安利
ひらけはとふらで寒ぐ人秋の風 如故
幾田文方白のとゝ
秋を乃光ゆく
秋を寒さ求めくゝ幾田風こゝ会 白一
ある蓋ちるへおてもの初の文 未元
すゝのまゝ文蔵の蔵の花盛 惟新
乃ゝのぬさ人奥ゆる花のたゞ 忠也
文屋をうれを恋のまんげ毛 正信
乃ゝる文月をはやゝ手 清方
勝るをゝゝゝる文月小 東貞

毛吹草題目録

冬之部

初冬　時雨　落葉　霜　霰　雪　冬月　氷　炭竈　埋火　鷹　水鳥　冬菊　神楽　冬ゝ鶯　冬ゝ海　歳暮　年内立春　雜冬

冬

初冬

枯れき　枯木ゆゑ　月　清元

餅いとふ　ふるはしゆゑ　徐来

十あまり　ゆゑ　月　西亭

亥の子餅　もきゆゑ　月　弘永

時雨

来の世も　後　重方

うそ　思ふ　海　外　重頼

雲ゆゑ　月　ハ　あこよ　弘永

雪ハ中の芭蕉で候　初時雨　可理
雪花の親ハとゝろぐ時雨哉　作者
見こゝやき時雨の雨やうゝ坂　正章
紅葉をとゝをさでこゝろ時雨ハ　伊勢　定次
十月ハげゝもさわゝや時雨　忠也
天気さへ雨ぶり雨ぶりきり時雨　重勝
まゝこで雪ハ宿ハこゝ山まこれハ　真之
定ゑの時雨や冬のさゞんくい　正依

落葉

池水ハひつく木葉の時雨哉　正依
吹ちらすにおもやの風の神ゝく　[illegible]
松風や落葉を敷て弾絃打　[illegible]
落葉ハ雨ハ時雨ハ　[illegible]
木葉ハ雨ハ時雨ハ　[illegible]
落葉哀う人ハ雨ハ時雨ハ　弘永
十月ハ木葉の雨ハ時雨ハ　同
雪と綿ハ木葉の哀れ　宗朋
落葉哀れ　[illegible]
もゝ女木葉の哀れ　[illegible]
木葉哀れハ　庚仙

霜

雪程霜ハ白ハ　成函

天ちく池は人ゝの見物　光弘

春く塩の月新なるもの　昌交

きさき目をさまるの暦の霜柱　弘永

春の水きも冴ぬ北の雲　重頼

塩よりて塩ゝ塩ゝ塩ゝ　宗房

鬼の面ハ鬼瓦ゆゑ化粧ゑ　後安

ゆゑ松や我下草ゆゑ　吉貞

白き物ゆゑ白き物ゆゑ　重方

霜柱ちゝげ物ゝ月新　宗供

明間をくゝ明間　霜柱　宗房

をけつゝ蓮つき蓮や霜柱　弘永

霜柱山路よりけり　道二

霜の世ゆゑやあるゝ霜　宗房

をゝいハゆゑ霜ハ見ゆ　宗彩

風の音や春まだ浅ゆゑ　忠也

ちゝ大豆の小豆の霜　定時

あるくゝ霜の霜の霜　芸庵

追善

名ゝ残りゆゑ名ゝ残　重之

[illegible] 弘永

[illegible] 秋の[illegible]の [illegible]

[illegible] 正俊

[illegible]

[illegible] 宗者

[illegible] 光の

雪

[illegible]の雪 [illegible]

[illegible] 宣房 [illegible]

[illegible]の [illegible] 道繁

[illegible]

白き物も見[illegible] 昌永

[illegible]の化 [illegible]

[illegible]の [illegible] 敏正

[illegible]の [illegible] 延貞

○富士の雪や [illegible] 弘永

○余の山や霜[illegible]の [illegible] 乃二

○富士山の [illegible] 東吉

[illegible]中の [illegible] 西依

[illegible]の雪 [illegible] 永治

[illegible]の [illegible] 陸奥

○三國乃一[illegible]や富士[illegible] 弘永

きうそとかすみてまことや雪の庵　能宣

世恩とハ蓑の笠の富士の雪　昌玄

○三国乃雪やはるかに白雲の　弘永

尾も白鳥の頭も白し富士乃雪　能宣

雪花ハ白拍子やとたとえ　宗長

○物ゝうしやお立ち人乃ゝる佛　元儀

○水しけいるかゝるし雪ゝ　白盛

○中くに推ゝうぎやゝも富士の雪　永落

天ゝぐゝ海とゝ花ゝる雪ゝ　盛就

○水神ゝ関ゝ使ゝ雪ゝ　平宗

きみびとゝ人ゝ使ゝ雪ゝ　円

○雪乃上の位ゝ富士の名女　盛臣

ゝうかゝ山も何ゝ雪ゝ　弘永

八重ゝ富士乃源ゝ雪ゝ白雪も　重宗

雪やけとゝ富士ゝ　盛利

清ゝ雪ゝ緑ゝ雪ゝ　重貞

大ゝ雪ゝ見ハゝ雪ゝ　昌玄

ゝ人ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　角文

雪女ゝぐゝ雪ゝ男ゝ　掬風

ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　重頼

雪に枝連理ゝ　宗雪

名を花ゝ大名行ゝ　一云

出ゝ月ハ役ゝ行ゝ

冬ゝ来ゝ雪ゝ

雪花も三べとみんやたるこころや　弘永
雪を見しいまだ降るやあのうて　紙武
見へあの山の花まとこそ雪の　月
雪に神の白絹のみ羽ひ　月
雪綿乃かつ行やくろう　竿　良正
雪花ばかりの人竿ばやもの　國政
かのめすの月もいてゆくやもの　芳
山ハ白やもの乃ら　行
笛にきねばの家　竿　雄家
生まれるあるもぬやもの　貞二
白綿やたく青山の眉　一安
山國乃べ雪量　春

雪花ばかりて　清
降もあるぬのもの　安
降もあるぬのもの　貞
白もの行山や拍乃　道二
餅のうのきく　貞
矢乃行ばねと　白　宣
わづ花と思ふもの　家
行よなひくやや白綿の　利色
針と拍よいへや　弘定
雪花乃ちやの　実
ばもねんと志　雪の　実
ちの雨ねおもや　綿　成
雪花もの　根　弘永

風の変をかなしむる物やれの雪　道二

かきくれしふりくる雪やもちの雲　同式

塗炭乃雪みゆく

つかの間をいろどる雪や白うた　重頼

繕毎の綿のたぐひやけさの雪　永治

かけ山もあさまもまるやあの雪　重孝

接立て雪の塩山の海水　俊家

神垣の雪の雫なりし行の雪　永治

白鷺のもとにかくれし蓑笠　一滴

○雪を花とちらす風のあらしかな　西南

さそふ雪の花なりけりやあの光　同

雪の雪ハなぎり竹なるまの葉　重孝

海内小雪ハ晴ぬるり雪乃庭　光孝

雪小竹そり橋ふるの川雪小　光俊

雪ふるやかるのしたづ井の清　西南

山ふきまぜそなれ雪の雪　光俊

まれる波も雪山やあの雪　佛

ケまきこハ本雪夜りやあ雪　永治

氷

水神のあがさあんん氷う郎　宗朋

我男の目をいやらく氷うな　西孝

水精の橋とかけるる氷の孔　秀重

白張の氷ハあまこと氷　宗忠

雪ふてとのべるる氷の谷　弘永

清水やかすれとこそ紅葉　昌元
浪たゝぬ川の水やゝ風ふきぬ　道二
水ぐるまの甲に吹くる波の音　西利
○あら桶水あとかひろる水の音　秋廣
柳門みさへぐろる氷り哉　春寄
簾かさへ水とりさる水の音　西竜
樋の口水封を結ぶ流れ水　元敬
雪消ゆる高瀬や高瀬　宗治
○雨あがり地とかあしる水の音　宗治
地ぶりの水や鍬の濁り　徳吉
紅ばりに強き氷の衣かな　元元
鼻もはるゝ氷の衣かな　宗紙

強水の金具ゆるし岩の音　新口
氷の板はえつけの焼れ　西甫
あんとるるや夏さき水の川　丁亦
密よりでとゞこそ世氷面強　重方
桶なくてもに水さゞる水の音　詩的
○氷つる門のありてや白さめ　無墨
みきばる川は浸る水の音　宗仁
あ樋の門ぐんれや岩氷　光有
氷る池は強の わるる音　弘永
冬は月も水もかまる茶　同
冬は寝ぬかあを三てや夏の音　元敬
強水とかしる氷の鯛れ　元敬

鼎底ち竈と絞ゆや雪面殘　政之

銀屏ところい出たの水　利基

川岸よ川ちけの水　氏政

袁きたく川の清中の水　西利

ゑ出ゆる池の水やこゝろ拙　祖翁

むかしきなぞくゑ出や夏の水　昌意

天ちこ祈ゑれ鏡の面子水　

國くゑあるや雪の底川　梅盛

冬月

ゑ月をまるゑやゆのこゝ　重方

池ゆるゑつく月の影水　西意

堤火

燒物ハ煙む火花の旬の水　重方

ゑ月ゑ扇をつゝふ火桶水　定綱

だいてねゝも肌ゆゝ火桶　西意

あゝ火乃清ゑハ雪の　豫盛

堤火ゑ出ゆゑ猫乃引ゑ水　重頼

ちこ火よ近づきゆゑ　弘永

こゝ火乃風穴ゑ　忠也

ゑやゝを直ゑこゝのひや水　宗宅

細炭やゑ出ゆゑ　宗房

いゝゝ火ゑけ出ゆゑ火鉢水　井麦

炭竈

白粉もやく炭ゑ雪ゑ　宗之

炭竈ハ只山陰ヶ火桶ゑれ　紫雲
すみがまは只山陰ヶ火桶ゑれ　紫雲

水鳥

昔のこう奢乃形ハ名る甲　近依
なるは云にいとれめ明ろ武　冊後
稲乃名や水辛こ明の麦鳥　弘永
芦鴨とりとといたる書理　一正

料理て人も麦ふぶる水　光ろ
鴨さむこ麦くにおり鳥武　不葉
水林乃昔ハ麦れ一番　昌麦
泊風ものそど味り麦鴨　正長
世ハれいおちに鴨乃名武　雅春

水名ハ波乃鶏は芽絵れ　弘明
水鳥乃麦のぐりや波の老　弘長
名名し麦れ稲と好ろ名　正利
鶏波ぐ見ぐ武鴨乃れ武　弘永
泊かこぐんあろや麦こと見　月

水鳥は見やすあるお武　一正
ろ名おろ麦ひろ泊鳥　宗朋
武れ著おさ鴨名ぬ鴨も　作麦
水名や波ぐ鳥ぐうん享武　麦重

鷹

顔おて名ろ名ハたろ武　麦重
名ぐ名ろ麦ぐうんあろし　燈名

芦鴨に藤をやぶさかる場に　同

神楽

きねゆゑ神の御つかへ神楽　光有
まいどの千仙や　重夏

冬菊

冬深いとゝ此ゝ地蔵の花　忠景
冬深きあや十歳乃藤葉　正安
寒菊もさを綿をるやけさの雪　正平

冬梅

あゝ代長きれゝや開花の梅　宗春
冬深やもとゝあげ花の元　光有
冬深の梅や　宗春

冬ゝ深もさ花梅の元　成政

冬鶯

冬ゝ深くはめて来る鶯の声　繁氏
寒ゝ深そん之笛吹養式　政元

網代　清

侍従鯉もかゝん字治の網代　信安
宝清八策の一枚ぬさこねに　清元

歳暮

寅の年も尾付ゝ加ゝ　秀重
東大豆ゝ花の年　隆秋の年　侍伯
老と賀よこゝて流ゝ年　宗三
思やゝよゝふゝまゝ　三龍

もらへきの焼もてゝ也 光之

一年は矢の根ハ和の敷りか 一茶

行くとしやひとつ月日の嵐哉 重方

まゝ子ハ行かもしらぬ 正之

親の遠ざかり

たてゝ立さふ年も俤哉 重頼

晩さよ行さるハ年の矢庭哉 貞室

芋分かゝるもきめ新年哉 能宣

晩のよ

今日すや年は篭の玉箒 同

田舎人の餞別

年もさきへ切れやなりそたち 同

尺八の年ふれ竹のよぎり 安友

年は矢ハ笹乃意よ乃正之

夢分の搭もさゝ達矢乃根ハ 正俊

臘月乃おゝれ年ハ 能宣

年間立春

年は間ハ行ハ是てち立春日ハ 光有

年は間の春ハ立春日ハ 元弘

春乃間の春八陰陽和合乃 永俊

うれしらと 春乃矢八の春日哉 成政

立春はやゝ知へ人るや門ゝ 宗房

年は間の雪乃独やひるかぶち 政之

雑冬

深草ハ土器(くわらけ)名乃名所に　維舟

冬来てハ竈(くまど)わりけり芽がや外　光之

宇治ハ山すりくく

湊乃和や宇治十帖の紙衾(かみぶすま)　能舟

うへ下や親の子綿子乃兄弟　斎庵

千早振紙子ハぬるも湯立に　康耳

志ゅ中十六むさし宮ご餅　宣時

親の追なり

今見月色艶(あつ)き涙(そゞ)の袂かな　昌玄

人乃親の身備りけり

こ大宮やへのいろちも極月(きはめ)

小れ花洞ハとりや冬からさき花　弘泉

發句

春

見ことあよ梅乃かをりめん東見とき月　重貞

梅乃花を

なるむへき庭でちや母にまへん所　重方

おゐしハ咲むめ右様もゝじめかな　寸赤

すゞめ乃花よまよみハ野梅かな　正俊

盤ゝともむめかとゞめんとぞりけり　秀重

葉をもちへて　重長

なゞくたくゑ乃おもちゃ菜たくかな　兵

ちぢまつく　長うりうの八ハ如　　貞義

松のまの　おもやくやき西の方の　　秀重

けい　　彩花家まて　　俊永

京さむ　おもやくやき　　重豊

嘆ちつく　花形ちくんハ　　宗房

二階　嘆の　様と　　重頼

長ハ　ゆ小軒　い　様の二階　　重方

本ハ　ちり　長ハ　ちり　長ハ　様　　春可

すぐ

花の　絵かりうの　ゆ　絵の　編

しら　皆ハ　ゆ　すぐ　小　酒の　花ハ　酒　　弘永

おぐし　目ハ　雲ハ　ゆ　山も　花　親　　俊永

永　見　絵　ちる　長も　本　　同

名ハ　ゆ　ぐ　花の　雲　ゆ　ハ　恋　花　　重供

見　ハ　ゆ　ハ　ぐ　ぞ　ハ　ぐ　花　絵　　重貞

四　ゆ　し　花ハ　ち　ハ　ち　ゆ　人　　貞重

ちぐ　雪　本　ぐ　ち　ゆ　絵　ハ　彩　湯　ち　ゆ　　俊永

かれはみんいさましじみまちしじ花の良　同

らく　光重
あさくや一本知るんさいハ幸橘

らくはせいおやづそ脇をいせ橘　忠也

なびつくはいまぢいまぢいたくしじ　正長

高はしさひて果ふるしさ　雅之嘉

永日ぶ蝶蝶とぶ蝶二足ふれ　同

はれりかぬ水ふるるるのよ　同

はをあの雲とやうれい鮒ふ　宗房

馬よのるいむてひぞいるひ春れ　光有

中家ハるれあのまん春野ふれ　重供

はと家ハ代りれたひ春の水　長好

夏　迎文

ありきつり釣をふれを卯月の垣　雅之嘉

ぬるるたちばあてそ松これハ風車　昌之

[illegible]
[illegible]　宗房

[illegible]　[illegible]

[illegible]　同

中を又はる花の波立澤の水　重方

田植うゑ入るうぐひす田植哥　重教

蓮の葉の筋いとゝ[illegible]いとじ蓮の葉

[illegible]　[illegible]

秋廻文

[illegible]　[illegible]

[illegible]　同

[illegible]　重頼

[illegible]　四章

[illegible]　重[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　重[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

名所の月を　等久

長月を[illegible]　正直

[illegible]　能嘉

きくの[illegible]　梅盛

[illegible]　繁嘉

[illegible]　同

[illegible]

暮に野乃萩や槇の葉の強　同

きいの[illegible]　宗房

[illegible]　繁嘉

[illegible]　重貞

[illegible]　一正

[illegible]　梅盛

搗のけい蓼の種のあさ池しの水　重性

中ゝ蓼をむしばりうん寒氣ゆ　紀三郎

中ゝさいはいまごしのたかい稲葉ゆ　同

友のこ居しゝ山や蓼山や權ゝ下　同

冬　紅葉

池の首鴨うまの浪の景　重頼

面ゝ鴨とうまれ　紀三郎

長寝りて鴨の鳴ゝ寝ゆ　同

寒のうふむしるうんの方　同

蓼ふしきの門柱ふきれの月の逸　重貞

月いねのこ餅をそ乳もまれ　紀三郎

乳も呑ゝうろこまろうんの蘇　重方

もえゝはさのむやかんの酒ゝ蔵　紀三郎

重性のこゝむさや寒さ風さ

又或句ありり

あるはけさ屠蘇酒さぞと酒は酸

浮まづ人もうたて屠蘇酒

遠ゐ遠ゐ水流や花もいさ

鶯のうたこのまん素の塩

長き夜や夜ぶ塩まで

右しみ句

おもはるけき

あるはけさ

うちひなの

まにのるの

長き夜

めでたうひ始春は元旦

みそ始めく句古大家の制之

但をれ

等し俳名ハ用ふ

いね　応之

折句の習冠

すぐれ

長好

遠ゐ百人とる寒や宗氏古蹟

[illegible]

[illegible]

句数之事　二百十五

作者不知

[illegible]

春可十七　昌意七十七
道秀三　休音十
道二六　宗阜一
宗儔一　如雲一
背眠一　道寂二
寸赤十一　玄竹四
利安一　斉庵一
六廖一　宗宇一
改昌五　正依廿二

正直 四十二
政公 四十
重方 六十
重貞 三十九
宗房 五十一
意敬 廿六
定重 十七
吉政 十一
宗頼 八
宗輔 三
安利 三
重正 一

秀重 三十七
永治 四十
正章 五十七
重供 二十九
重頼 四十八
貞義 十四
忠也 十八
横盛 十一
重久 五
吉林 四
重定 三
重長 三

正次 二
由氏 二
頼寅 二
政之 二
重治 一
宗竹 一
勝俊 二
栄正 一
吉貞 一
清長 一
諸元 一
家根 一

光重 五
正長 五
繁正 二
重好 二
一滴 一
直次 一
重政 一
宗隆 一
是信 一
信忠 一
吉数 一
保成 一

重次一
正包一
家治一
和通一
正成一

文勝一
穆宗一
長昭四
慶次一
貞勝一

清之經

無文安
宣統一
乃忠一
宗二七
一正 五十四
貞德六

道家一
道藏二
宗夕一
正南 十六
宗治 六
貞盛 六八

成安三
弘永百安
宣春八
永次八
宙延二
安知四
一味二
吉次二
光忠二
重吉二
一利一
吉一六

貞之六
盛政八
成政 二十
元弘六
西之五
長重五
重直三
盛長五
西則二
西次二
牧雪十
信猪一

盛次一　家次一
宣次一　宣之一
治連一　冨連一
武寿一　永敏一
通教一

大坂住
宝暦五　宝暦三
静寿五　安明四
元次三　西之一
一覚一　重周一
重次一　修明一
西信一　迎徐二
利貞二

正武十　那山住
岑松二

大津住
慶則一　宗連五

膳所住
直之一
由生六　尚也一

一末 四

勢州山田之住

利清六　京仁四
玄心四　文壯二
武清三　宗俊三
延俊三　末吉三
宣雅三　丁俊二
光有京二　西利　外
吉家家二　西郷二
金石二　[illegible]二

[illegible]二　安清二
周久二　重次二
宗義二　長昌二
西安　外　祐家一
國義一　秋廣一
孝時一　國親一
元儀一　易俊一
家儀一　國義一
宣盤一　守種一
貞助一　家時一
典親一　弘喜一
貞清一　忠景一

滿安一
光奠一
弘則一
宗堯一
宝次一
民政一
忠尚一
文惟一
政昭一
光秀一
未光一
貞成一

光成二
光奠二
弘浣一
吉滿一
後英一
詩的一
奠光一
良傳一
盛長一
弘長一
正重一
正次一

清親一
守任一
不業一
留沢一
子世一
留城一

常弘一
如心一
光英一
重一
兵城一
齢都一

同清之任

宗除五
汲一二
延貞一

盛政一
盛秀一

同松姫之任
吉弘六　加藤二

江戸之任
德元五十　玄札二
利邑六　常久七
鑓持三　廣尊六
新口一　姫鶴一
正能一　重房一
元綱一

紀伊若山之任
宗明十五　定時次
時伯六　春庵二
正平八　良重一
繕正一　知元一
秋國一

幡別姫路之任
豊澄八　利忠三
後安一　重政一
文重一　利次一
庚伽二　政次一

因幡之任
康蒲又

安義之任

寛記二　越前之住
信安七　信全四
加賀之住
可理二
右之外　丹波国一
紀伊国一　美濃国二
丹後国四　肥前国三
句数合二千句
作者　二百六十人

春

○鶯乃声も上手になりぬ
田舎にも京ある花のさかりにて
町とある山まで見る向ふ商人
○春雨とやはらかにて見ゆべき
すべては業ほまいるなりけり
百姓乃御事なんとものゝあはれ
花にうく老もあやかりにけり
あるは春を知さかりさけれ
試筆乃年を書ても
書初をあけて見るらん

百姓の大ぜい通ふを見めぐらす
さきの方のそらはの
年ふる乃廊を志りはよ宵
すみくらしたるをなぶるとなんめくらして
矢倉ゑりはたらさ岩の芳ノ
ろくきやふを見るる山の腦
ゑのしたんの夜ぬいやく称
吉称や花ゐおぼくぬ家和
挑ちゑ 借といとふ
さげさうろ人やさうん
北のゑ乃雑波の若代員と見る
月りおてわくれろかたい

花乃はきゑはやそ嘆なん
くすをつくるきのゑ
ゆびをもめくをわ花乃枝
ゑいくよろ身舞る
花乃ゑゑうらくと春ゑくく
耳成わくやまの川をる
花源乃きぬのあひめも振ゑ逆
よの花をゑおとを麓行之
ゑハ響くむ花乃ゑ弱あやをんう
はくら張ゑわ大若の世
ゑくうゑ月もゑ種をまろよ
ゑゑ月のゑの乃地獄極楽

[illegible]

夏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

い瘡を七夕ばかりはめてかさくしし
のめりぐりめんあり秋の嶺が
月乃雫は乳ちかぶとこそおもふれ
まりたわ猿うとおろいと面白き
片帆でも月の八生ちくけりひとみ
姉をこそ弟とと抱をあすが
あれ面にてる月乃こと連歌て
よく塩汁うきき抱ハ
あるの乃はきまりくいあるる白山神
志あの宇ハ水もとらは
玉ほとの手けをうるすまひわ
手をたまとあぶてそぐ

もるまひ乃ほれを蓮の葉ぶく
物うくと玉をひの葉ハ
いげるもら屋まあ月のこいひ
いつまはありとりる鷹ハ羽
野蛭ひハ蛭がすをせんれ
腰りくる蓮乃葉ハ
ふりんをそてハを
清子ゑけのくあり秋
ものをみるれ猿蛙
ぬ一味ハ
蜜ハ 揉乃ざハ
霧ハ秋ろく雲の秋風

縦に並ぶ門田のはさみ附
りう哀しく猫(ねこ)もさわりつゝ
秋の田の水の魚ハ鯲(どぢやう)りして
くちびる(?)の穀をなからぬ(?)
落陽に五門もまも嫁る紀山　誠

冬

山さるのひく銭黒よりも思ひ出
いで藁も菜つけりの月をみて
むつめの娘の貌も剱羽
一部ハ甲以筆ふるの居く
信鋪乃まつ(?)そのかな

初とめて神もち嫁ふかふる
雛渡ばさんに風さらこ法
古家ば次や此門冬ふあるも
冬ともたも後もを一年ふる
九年(ばんさく)や家乃水おいて合ふもん
いぶかく孫ぬるんかれ　赤
坊主むの大桶(おけ)も乾(?)命　申(?)

恋

住吉乃きし海しまる人ん
そりし世の嫁りの浅川　三島草
りきのきつと何らはまん

○心なく露しげく庭にそうて
立ち出ずるたびの月の山路を
むさし野は露けくちぎる人はるゝ
秋るもあきぬも立ちまいれ まめ
○お猪や山より出る雲ぞ風さく
立ちしも木にもくさの山
くれ竹を見てや庭のあざさ きりさ まおし
さけば思ひて人と言ぬ
○思ひの山もかげがゆき入るる是
春の夜の夢は萎ちぎ きえし
くるるく たのんくに言ふ野
出 浜の鬼に…せしかり

松るを彼しわかおこて立の道
○こよめくひかちて消えるつか きえさ きらく
これ里のう人情して勘され
我がはちちすれ上て契りん
池水のそこからん人を立隠く
松風そばからく汁かす
くず
葛は葉のうらみの冬さえど
糸りしれん秋の如し
おぎ
○荻の葉のそよぐおとぬ情けも
冬瀧におりてよ勤し 終む
思ひ間にあれど云ふもこころ春
流しるるかの奥の庭さよ

[illegible]

[illegible]

一すさまじはさうぬ[illegible]の上
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一朝たと思ひ宮[illegible]
[illegible]
いけともあてもぶるうひく
いつくあり上[illegible]
きこゆる女の男[illegible]
ひまもなくてもるハ解[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

雜

弟にて八屋うく別あんする
双六乃をいうれ〳〵にん得く
人乃根をむきくさ云てれ〳〵し
ひとうひはいまんせうつちう
意乃やまひや重さ葉平
おきるせいを持せてぶる葉の和
もすそびくつく家敷の家
米まよ意を若てもりへやふうひ
高てんぬ和のみこうん孫の乃
渭田川若を海とあさし
うのこうるよはむ孫人

せんさうくるは乃おへ
すいまうへをとうぢふれや濃み
物うをもる位敷の濃乃をほ
家ハ部うて当すべうみち
うを新くまめる孫の若仰
かうを若つかまひれあげて
おほうるるもうぶなのうひな
書辺乃人意うあ辺中に
すぢを寄てゆづる重代
あひうるこハそうカ和やきど
ちひきおりへ客人のお

山さとの樽ゐり来るかんこゝ
雑談のあれよりもをしらるめ
樽をさをしらるをこ漢の酒母
久くれ雲の泉の酒をゝ
紙おの紙ゐりうける落書
拵うる物を酒るあぶるさ
ぢの國のあるゝ七ゐ男ゐうつめき
わかゝのあれめか姫しそへ八
嫁あげのうゝめうゝき網乃奥
古人乃まちれ祖を思ひる
うれと屏風の絵ゐ
ぢうゝ乃しめ幾るれ朝ゐ

ちをくなうれとうの矣あら
物ゐめうゝきゐ屏風そゝ
ゐうゝぬ病の雛を道う孫
子ゐびくまけてうれて平合
落人うゐ一の若ひ
みちうれまん津祖を踏ゝ
内も乃人もあれきゝ
きうゝもゞさゐる思ひをいゞき
酒盛のやまぬ祖ゐそへ久
夜乃ふゝ屋のゐ祖そ拵ゝ
のゐるゐる文のゐるゐゐ坂
はゐ祖うゐ祖ゐ物ゐんゐわゝ

[illegible]き弱のイ

やうくさあくてやさ毛線の言

桜さかく梅ちる髪のゆゝ初

屋うそ乃らんと思ふ牧駒

花合百句

紀宮